



あなたの応援が、
復興への
一歩になる。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

ニュースレター (2012.9.3 第3号)

活動報告

第2期活動を終了し、第3期活動を開始しました

第2期活動について

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、2月20日より開始した第2期活動について、6月29日をもって寄附募集期間を終了しました。全国の266法人・企業と27名の個人(2012年6月29日時点)に参加いただき、頂戴した総額2億6,812万6,113円のご厚志は全額を被災地支援に充当いたしました。具体的には、募集要項に従い、岩手、宮城、福島の被災した県立専門高校にそれぞれ7,428万円相当、5,456万円相当、7,714万円相当の実習機材を贈呈した他、岩手大学三陸復興推進事業に約1,222万円、東北大学東北未来創造イニシアティブに約1,222万円、宮城大学三陸復興ステーションプロジェクト約822万円をお届けしました。また、宮城県運営のみやぎこども育英募金に約722万円、福島県運営のふくしまこども寄附金に1,222万円、二本松市に1,000万円の寄附を実施しました。

去る7月12日は、盛岡市において、長谷川閑史・共同委員長(経済同友会代表幹事)より、達増拓也・岩手県知事に目録の贈呈を行いました。その際、達増知事からは、「頂戴した教育機材は沿岸部のそれぞれの学校で有効に活用させていただいている。皆様の支援により、岩手

の若い人材が、将来の岩手、日本の産業を支える人材となり、必ず支援に報いるものと確信している」との感謝の言葉を頂戴しました。



左側：達増・岩手県知事、右側：長谷川・共同委員長(2012年7月12日事務局撮影)

第3期活動について

第1期・第2期活動に引き続き、きめ細かい支援を継続していくため、8月27日より第3期活動を開始しました。

運営委員会による議論に基づき、各県教育庁からの要請を踏まえて専門高校への実習機材の提供を中心とし、岩手大学、東北大学、宮城大学による復興プロジェクトなどへの支援を実施します。

第3期活動の寄附募集期間は、1月31日(木)までとなります。第1期・第2期に引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします(詳細な内容については、[公式HP](#)をご参照ください)。

専門高校支援

岩手県の各高校に実習機材をお届けしました

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第2期活動では、岩手県立高田高校に対し、水産加工実用使用するマーク押機・卓上フードカッターなどを贈呈しました。

同校は津波により校舎が壊滅的な被害を受け、現在は2008年に廃校となった大船渡農業高校の校舎を代用して授業を実施されています。昨年度は秋田県立男鹿海洋高校の施設を借りて各種実習授業を実施したとのことですが、第1期・第2期における小型船やダイビング機材、水産加工実習機材などの支援の結果、今年春からは高田高校近隣にて実施されているとのこと。

工藤良裕・校長からは「皆様の支援により、多数の犠牲者が出た本校もようやく落ち着きを取り戻しつつある。実習授業になると目を輝かせる生徒も多く、皆様の支援により実習授業を再開できたことに心から感謝している」新校舎の完成は2015年4月を予定しているが、昨年4月に入学した生徒たちを母校の校舎で卒業させてあげたいので、体育館だけは2014年3月までに完成させたい」とのお話がありました。



左側：工藤・高田高校校長、右側：岡野貞彦・(公社)経済同友会常務理事(8月21日事務局撮影)



寄贈した実習機材にて生徒が作成した缶詰(サバ水煮、さんま味付、サバ味噌煮)を頂戴しました。

なお、第2期活動では、高田高校の他、岩手県内7校、宮城県内3校、福島県内11校に実習機材を寄贈しており、7月以降、随時、事務局が各高校を訪問し、目録贈呈や現状に関するヒアリングを進めています。



福島県立平工業高校に寄贈した旋盤一式(左より岡野・(公社)経済同友会常務理事、高山隆・運営委員、前原金一・(公社)経済同友会専務理事、鈴木則喜・平工業高校校長(7月18日事務局撮影)

出張授業、被災地視察の実施について

出張授業について

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、被災地の専門高校の生徒たちを物心両面で支援するため、実習機材の提供とともに、企業経営者による出張授業を実施することといたしました。昨年11月の第3回運営委員会での議論に基づき、まず、第1期活動で機材を寄贈した各高校を対象に希望を募った結果、8月23日に岩手県立釜石商工高校の3年生172名を対象に、小枝 至・日産自動車株式会社相談役名誉会長（経済同友会・前副代表幹事）が出張授業を行いました。



釜石商工高校での授業風景。壇上は小枝・日産自動車相談役名誉会長(8月23日事務局撮影)

『働くということ～社会で求められる力とは～』と題した授業では、小枝相談役より「日本の強みを活かして、世界で発展していくことに参加してほしい」「どんどん変わって良いので、将来への希望を持つことが大事」「一隅を照らす“国の宝”になってほしい」との話がありました。

生徒たちからは、「仕事で喜びを感じる時は？」「今までに辞めたいと思った時は？」など、質問が多数寄せられました。また、授業後の教職員との懇談では、田中耕之助・副校長より「傍聴した教員に

とっても非常に貴重な勉強の機会となった」との感謝の言葉を頂戴しました。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、今後も被災地の専門高校の生徒たちを物心両面で支援するため、各校の希望に基づいて出張授業を実施する予定です。授業の様子は随時、ニュースレターにてご報告いたします。

被災地視察について

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、第5回運営委員会において、参加企業のご担当者の皆様を対象に、支援先の各専門高校を訪問し、支援の現場を見学いただく「被災地視察」の実施を決定いたしました。

このたび、第1弾として、10月31日（水）～11月1日（木）にかけて、宮城県の被災地視察を実施いたします。宮城県内の支援している専門高校（宮城県農業高校、宮城県水産高校、宮城県立気仙沼向洋高校）を訪問するほか、宮城県教育庁幹部との懇談会などを開催する予定です。参加に関するご案内については、詳細が確定次第、各社ご担当者様にご連絡いたしますので、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 参加企業ご担当者による被災地視察

日時:10月31日(水)～11月1日(木)
集合:JR 仙台駅(10/31 13:00 頃)
解散:JR 一関駅(11/1 17:00 頃)

一部行程のみの参加も可能です。詳細は追ってご連絡いたします。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

～ご支援・ご協力のお願い～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災からの復興を支援するため、全国の経済同友会の皆様と連携し、2011年7月14日に発足いたしました。被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会の皆様の協力をいただきながら、将来を担う若者たちへきめ細かいサポートを行うべく、支援内容を検討し、真に支援を必要とする人に対してきめ細かい支援を実施しております。

これまで（2012年8月27日現在）に、法人262社・個人27名にご参加をいただき、第1期・第2期活動を通じて、合計6億963万5,060円のご厚志を皆様より頂戴し、岩手、宮城、福島の三県の被災した専門高校への実習機材の提供、震災で保護者を亡くされた子どもたちの生活・就学支援を行う「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英募金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」への支援、さらに地域の人材育成の要である国公立大学（岩手大学、東北大学、宮城大学）への寄附により、全額を被災地の復興に向けて活用させていただきました。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、これからもご参加企業・個人の皆様、被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会をはじめとする全国の経済同友会と力を合わせ、参加企業や個人の応援が復興への一歩になり、被災地が真の復興に向けて“一步一步”進んでいくように息の長い支援活動を展開してまいります。

8月27日に開始した第3期活動（寄附募集期間：2013年1月31日まで）では、これまでの人づくりと産業活性化という視点を踏襲して、地場の産業を担う若者の育成（津波で大きな被害を受けた農業高校、水産高校などへの物品提供）を中心に資金援助を実施いたします。また、出張授業の実施や参加企業による被災地視察など、多面的な活動を展開していく所存であります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

共同委員長 長谷川 閑 史
箕 浦 輝 幸